

商業施設 '09-12

Japanese Technical Organization for Commercial Spaces



巻頭ニュース 論

特集 1

JCD
「Seed of Design Award」の
イベントに密着取材

特集 2

都市再開発のこれから
—街づくり学・社会学の視点で—

波 大塚 則幸

Works

京町家で
「地域に親しまれる、
こだわりの商い」

演遊 en・yu

演出設備の
処方箋

時代 ～こだわりの店～

を超えて。「小川軒」



JCD SODA委員会イベントでの2作品



トレンド中心地、繁華街の野菜スポット
日々進化する、篤農家と若者たちの取り組み

人場

波

～デザイン思考～



大塚 則幸

第23回

おおつか のりゆき
1960年福井県武生市(現:越前市)生まれ。1990年大塚ノリユキデザイン事務所設立。`無のようで有であり、混在のようで透明な空間`をテーマにブティック、レストラン、ホテルオブジェ、住宅等を手がける。またデザイン専門誌に海外エキジビションの取材寄稿およびタイルメーカーのデザインカタログ編集など、空間を主題としたデザインワークを行う。メーカーと共同開発で越前和紙を使用したロールスクリーンのパターンデザインでは、2007年度グッドデザイン受賞、2006年度ダントータイルデザインコンテスト大賞

僕がインテリアデザイン事務所を開設して20年が経とうとしている。当初は飲食店、物販店、オフィスなどの空間をデザインしてきたが、4.5年前よりプロダクト、出版物の取材や編集など空間に関するあらゆる分野に仕事広がって来ている。ただベースにあるのはインテリアデザインなので、グラフィックなどのデザインをする場合も`空間`をイメージして行う。では空間っていったいなんだろうと考えると20年間やって来たが未だ答えがでない。毎回のインテリアの依頼に対して`こうであろう、ああだろう`と答えを求めながらデザイン行っている。ではどのようにインテリアデザインを進めているか。はっきり言って`大局とディテール`だ。与えられた建築の内部空間を業種業態によってダイナミックに平面計画をする。(ちなみに僕はCADでも手書きでも図面化できる)最初に白図にトレーシングペーパーを重ね、イメージし

ながら何度もなんどもマーカーでラインを重ねラフを起こしていく。重複したラインは僕にしかり理解出来ない2次元の世界だ。するとその中の一本のラインがとて鮮やかに見えて立体になっていく(頭の中で)。全体に立体が見えてきたらCADで数値的に平面図を書いていく。イメージが現実にならなく作業だが、これが何とも苦しい作業だ。

頭の中の空間は数値化(CAD)されると徐々にイメージとは違うカタチになってく。しかし想像した空間が図面といった記号の集積になるまいとあがき反発する。これを力すくでイメージ優先の平面図になるよう現実のギャップを埋めつつ作業を繰り返し仕上げる。

この時点でイメージされた空間がすべて頭の中で見えている。平面図が出来上がるとエレベーションをステップに上げてもらい、CGなり模型制作作業だ。ひととおり成果品が出来上がったら、プレゼンテーション。クライ



家具デザイン:
空間を創るのは違った楽しみがある家具のデザイン。

ルシエルブルー渋谷:
`暗い明るさ`をテーマに照明計画がなされた空間



アントとの折衝があり、難なく無事に空間にOKもらえれば実施設計だ。今度は1:1のスケールで空間に付随するディテールを決める。インテリアでいうところの納まり詳細図だ。空間ディテールとはいえ家具をデザインする様な繊細さで空間の納まり詳細を決めて行く。これも悩む作業のひとつだ。なぜならばこだわりすぎるとコストアップになり予算に対してのコスト調整の時になかなかコストが落ちない。繊細なディテールでコストバランスもありかつ新しいディテール処理がなされているインテリアを目指す。ここに僕が信条とする`大局(ダイナミック)とディテール(家具のような完成度)`のインテリアが出来上がるプロセスだ。

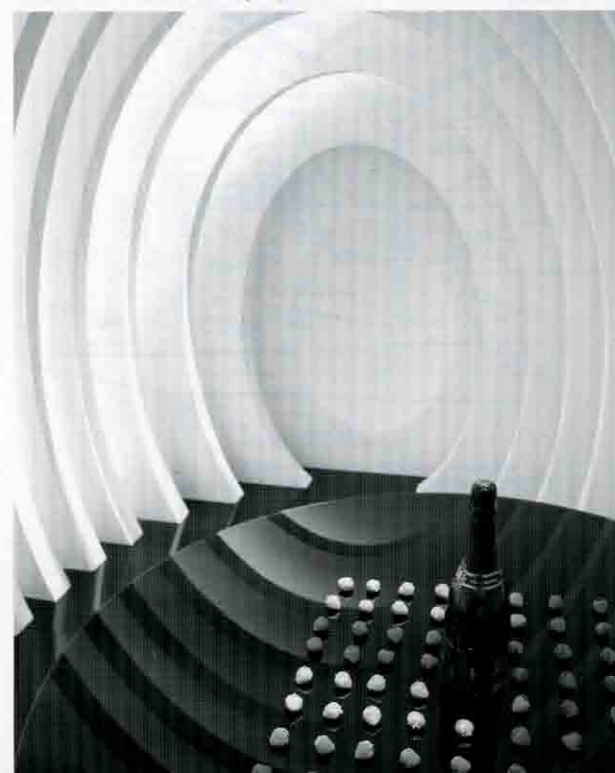
僕は座右の銘としている格言がある。
`無のようで有であり、混在のようで透明である空間`。
僕がデザインする空間はシンプル。しかし勘違いをして

頂きたくはない。何も無いミニマルシンプルではなく装飾が施されていてもシンプルと感じる空間。それは装飾と華飾の違いである。デザインは元来装飾であり華飾はデコレーションやコーディネーションだと考える。

PCの発達は装飾を華飾に表現して構成出来る。コピー&ペーストが得意とするPCならではの作業といえる。しかし僕はその華飾の中から削ぎ落した装飾だけを表現したい。ここに`無のようで有であり`が実行され、シンプルだけではないスタイル(品格)のあるオーナメントを志す。スーッと風が舞い上がるような透明感をもって、装飾の奥に存在する本質的な美しさを`混在のようで透明である`とした。

僕が作る空間は体験する事が必要だ。インターネットでのフォトジェニックな写真先行の現代では、なかなか現地に行ってもらうのは難しい。でも皆さんチャンスがあったら是非僕の空間は実際に観て体感して頂きたい。

展覧会2007
6人のデザイナーがひとつのテーマでインスタレーションを提案。
モノトーンのスタイリッシュな空間を発表



ルジュール新宿:
2009年4月に竣工したブティック。白い空間が新鮮に感じる



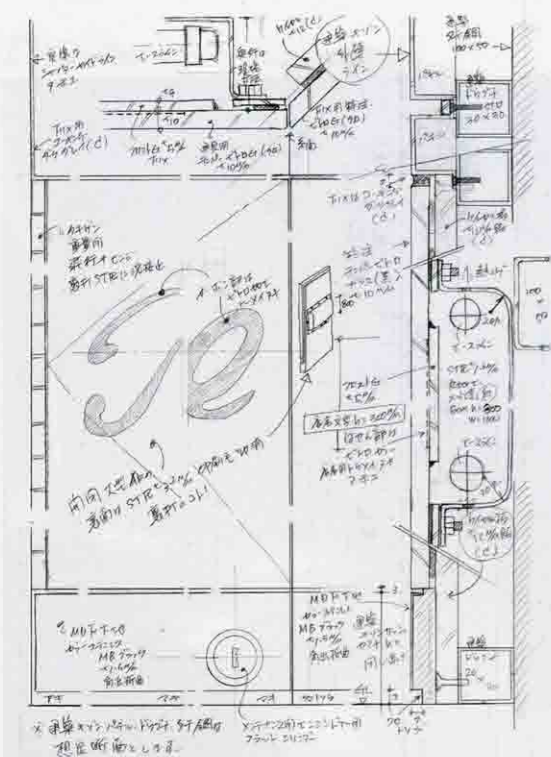


空港レストランCG:
プレゼンテーションでは映画用CGソフトを使い3Dを内製化して提出。

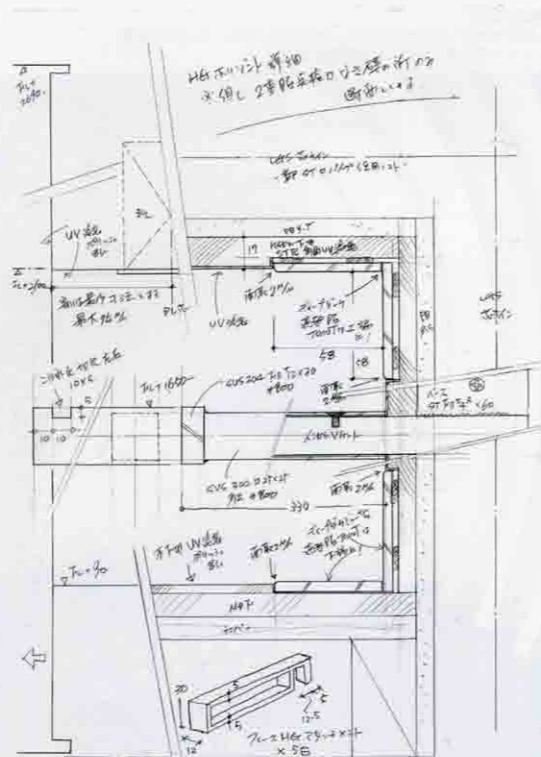
照明計画はかなり綿密に照明デザイナーと進めていく。光が無ければ空間は真っ暗でデザインを覚覚できないが、そこにひとつの光を灯し徐々に明るさを増していく考え方で照明計画を組み立てる。空間が程よい光に包まれ、`暗い明るさ`が表れた時に照明デザインが決定される。照明計画はオーナメンタルなシャンデリアやフロアスタンドなどを使うのはあまり好きではない。ダウンライトやスポットライトにレンズ、カラーフィルターなどを装着したテクニカルライティングを思考したい。光の光束はナローを主体に、狭角な光を空間に滞在する人々の目線より下に光の広がりにあたえ、無用な光を存在させない`暗い明るさ`で空間を満たしていく手法だ。

CADによって図面の完成度が飛躍的に上がった。建築金物、建材などDXFをインターネットでダウンロードして図面に添付できる。事務所の新人でもCAD歴2~3年

で驚く様な図面を書き上げる。20年前はドラフターで手書きの図面を書いていた(その当時ドラフターマンと呼んでいた)時代とはスキルの習得が飛躍的に早くなった。こんなPC時代でも僕はA3方眼紙にシャープペンシルで原寸の各ディテール詳細図を手書きで書きまくる。それをスタッフがCAD化する。さらにCADで製図された縮尺1:30などの平面図を原寸で各部位を出力して、その上にトレーシングペーパーを敷き、同じくシャープペンシルで原寸詳細を書く。もちろんボードだの軽鉄だの`当たり前`になってしまふ`詳細は書いても仕方がない(書きますが!)。書かなければいけないのは`普通はこうだけこの様な納まりにしたい`といったチャレンジした図面だ。ただ僕はデザイナーなので絶対的な施工納まりは完璧に理解していないので、この詳細図をベースに施工会社とブラッシュアップする。デザインの的にも施工的



大塚スケッチ1(左)
2(右): A3方眼紙で書かれたスケッチを元にスタッフがCAD化する。



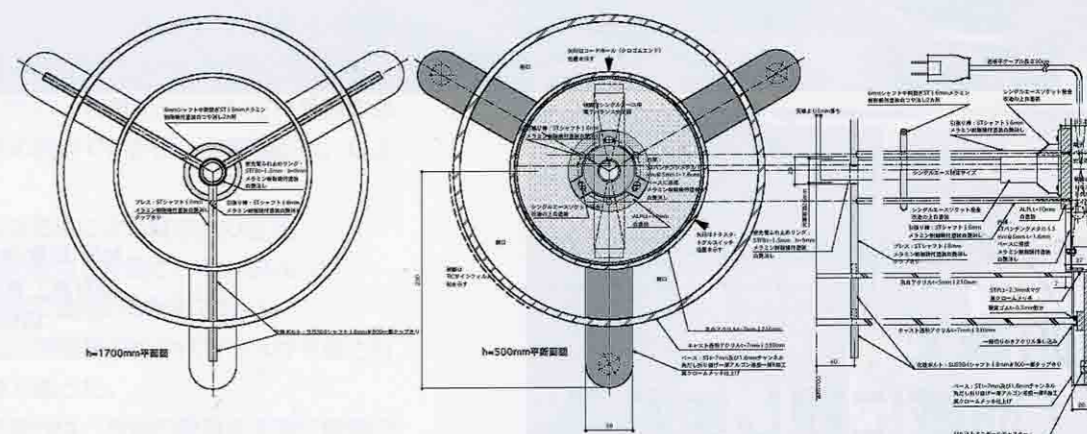
インタープラネットウイングス: 2009年4月竣工。SC(ショッピングセンター)の現場は可動式の什器システムが要求される。デザインと機能のバランスを重視した現場



にも前段のコストにも見合う大塚デザインオリジナルディテール。僕は実務経験が長いので若い現場監督に納まりを教える事も少なくなく、納まりもデザインするデザイナーだ。CADもCGも建材、建築金物あるいは家具も機械化で職人的要素は少なくなってしまったがデザイナーと現場監督は人的仕事の領域だ。

現場はまず現場調査を施工会社と行う。その後、図面を元に平面図に従って墨出しを行い現場と図面の寸法違い等を検証して何処でどのように寸法調整をするか決める。さて現場が進み出し下地が出来上がった時点で下地のチェックに入る。これは計画通りに組まれているか、または納まりのため隠蔽金物などが指示とおり装着されているか確認するためだ。この時点で間違えていても下地の状態では手直しが容易である。これが仕上がってしまったら大変だ。壊して最初から作り直しになってしまう。イン

テリアの現場はラスト5日間で色々な業者が入り乱れあつかも戦場のようである。デザイナーとしても足繁に現場に向う。この辺りで図面が立体になっていく様を感じられ、大わらわの職人さん達には悪いのだが一番楽しい時だ。無論、竣工した空間が最高だが出来上がりの途中は出来上がってしまったら分からない。工事中は僕たちのデザインフィニッシュのテクニックが充分に垣間みられる。このようなデザインは竣工すれば隠蔽され見えなくなる場合も多く、完成度の高い空間ほど竣工したら分からない。空間は何だろうと考えて20年近く経った僕は、空間とは素晴らしいモノなんだろうとは分かる。どう素晴らしいのかは、まだまだ答えが見つからない。しかし見つかった時は、僕は空間に対してどのように対応出来るだろう。まだ答えがでない僕は、その先にある何かを求めて空間を創っていきたい。



TIC可動式タワーサイン 3台製作
*シングルエースライン(特許)は特許取得済み、色温度は3000
*シングルエースラインセットSA-S2は機能部分は未使用、機能部分は改造

TICタワーサイン:
タワー式サインの図面。このレベルは大塚デザインでは当たり前で作図。

